



1e2020-001

2020 会計年度

一般財団法人ワンアース 事業計画書

2019 年 10 月

一般財団法人ワンアース



1e2020-001

はじめに

一般財団法人ワンアースは、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを体感し、ひとつの星で共生するという新しい価値観に基づいた文化交流で、世界を一つに繋いでゆくために、2015年6月5日に創立された。

本書は、当財団の2020年度(2019年10月1日から2020年9月30日まで)の事業計画を示すものである。

2019年10月1日
代表理事 長谷川洋一

設立目的

(定款より)

宇宙飛行士が、宇宙から生々しい言葉と映像を伝える時代になり、この星のありのままの姿が認知されるようになった。その結果、かけがえのない母星で共に生きる『地球市民』という新たな価値観が、国境を越えて醸成されつつある。

一般財団法人ワンアース®(以下、ワンアースという)は、地球市民、とりわけ未来を担う青少年らとともに、宇宙的視点から、この星の、いのちの美しさを学ぶ。

そして、国境を越えた地球市民活動を展開し、各地域の風土や文化の多様性を、相互に敬意を持って受け入れ、宇宙文化とも言える新たな共通の価値観を紡ぎ出す。

これらの活動により、この星に生きる誇りと喜びを共有し、世界を一つに繋いでゆくことを究極の目標とする。



1. 活動分野

1. 1. これまでの活動

当財団は、2015年の設立以来2020年頃までは、以下の分野を重視してきた。

1) きぼうの桜事業

宇宙桜(きぼうの桜)を筆頭に、宇宙すみれ等を、東日本大震災、阪神淡路大震災、日航機墜落事故、原爆等の被災自治体に贈呈し、地域間、世代間、そして未来との「立体交流」の礎を築きつつ、大災害の記憶と教訓を31世紀まで継承するための礎を築く。

2) 宇宙文化の創造事業

国内外からの地球市民の参加を得て、国際宇宙ステーション等を活用した宇宙ミッションを始動し、宇宙的視野からみた地球の姿および宇宙飛行士からのメッセージなどを世界で共有し、宇宙文化を創造していく。

1. 2. 今後の活動

2020年以降は、これまでどおりの「きぼうの桜」および「宇宙文化創造」を次のように発展させていく。

1) きぼうの桜事業の発展

宇宙桜(きぼうの桜)等を大災害からの復興を目指す自治体のほか、本気で地域の未来創造に取り組む自治体にも植樹し、地域間／世代間の継、そして未来への遺産を実現する「立体交流」を確立することにより、21世紀の記憶と教訓を31世紀まで継承するための礎を築く。

2) 宇宙文化の普及事業

東北被災地はじめ、多くの地球市民の参加を得て、国際宇宙ステーション等を活用した「[東北復興宇宙ミッション2021](#)(仮称)」を実現し、宇宙文化のプロデューサーとしての社会的評価を確立する。この事業を足掛かりに、宇宙的視野からみた地球の姿および宇宙飛行士からのメッセージなどを世界で共有し、宇宙文化を創造していく。



2. 今年度(2020年度)事業計画

2. 1. 全体方針

定款に則った活動の実績を上げつつ、公益財団化を見据えた会計システムに則りつつ、受注活動も促進し、財政基盤の強化を行う。

きぼうの桜計画は、引き続き当財団の存在意義に関わる最重要事業として推進し、東北三県沿岸の全市町村にて計画を公式化し、その5箇所程度において、2021年春期に植樹祭を行う。また、きぼうの桜をとりまく市民文化の醸成のため、物語および歌(合唱曲)を広く周知する。

2020年9月には、きぼうの桜事業に参加する地域間の水平的なつながりの礎を築くイベント「第5回 きぼうの桜サミット」を福島県福島市で開催する。

さらに、2021年3月を目指した東北復興宇宙ミッションを企画実行し、外部有識者・協力者らの意見も取り入れつつ、復興史に残るような市民プロジェクトに育て上げる(打ち上げは2020年末頃を想定)。

また、ワンアースの活動を全国的に認知してもらうために、公的補助金等を積極的に獲得し、メディア露出含めた広報努力を行う。

以上の方針により、2020年度(2019.10.1-2020.9.30)は、次項に示す各事業を遂行することとする。



1e2020-001

2. 2. 個別事業計画

1) きぼうの桜

宇宙を旅した「きぼうの桜」を、再生のシンボルとして復興各地に贈呈・植樹する。桜の植樹後、恒久的な養育までを含むため、その事業期間は千年以上と想定している（当面の表記上は、3011年3月11日までとする）。この事業をきっかけに、各地の市民・青少年交流を醸成し、ワンアースが掲げるあらたな夢と希望の宇宙文化活動を実現していく。

きぼうの桜事業の詳細については文書番号 1e2020-002「きぼうの桜計画 2020年度版」に定め、随時改訂していくものとする。

きぼうの桜

千年の津波から、
千年の桜が守ってくれる

津波の被害を受けた
津波到達点上に
宇宙桜を植えます

被るべき町村の
津波到達点上に
宇宙桜を植えます

約20m角のハート型の光景
家には植え込みで桜を保護する。

ハートの先は、平野部の局
地の方言を記している。
ハートの中心部から、本陣ま
たはステージで桜に近づけ
るようとする。

桜は、きぼうの探検船
を通じて、地球を繋ぐ花嫁で、
小さく目立たぬ様にする。

被災地に寄り添い、未来への決意
を込めて参加する地域

①巨桜が避難の目印に
安全圏を示す、子孫に伝承できる目標物

②雄々しい宇宙桜は希望のシンボル
尋常でないその生命力は、観る者に生きる力を与えてくれる

③新しい観光資源として
一本有るだけで渋滞が起こるほどの観光名所になる

④東北海岸で宇宙桜の巡礼ができる
地域交流、そして数千年続く文化事業を、今、はじめましょう

宇宙桜とは、若田光一宇宙飛行士とともに、宇宙を旅し、地球を4100周した名桜（日本三大桜含）
の種から育てられた巨桜の直系子孫。数千年生き、公園の桜の数倍巨大化する、稀少な品種です。

山高神代桜 山梨県北杜市 樹齢2000年
伝・日本武尊御手植

根尾谷淡墨桜 岐阜県本巣市 樹齢1500年
伝・徳田天皇御手植

三春滝桜 福島県三春町 樹齢1000年

醍醐桜 岡山県真庭市 樹齢1000年
伝・後醍醐天皇ご鑑賞

ひょうたん桜 高知県仁淀川町 樹齢500年

角館武家屋敷桜 秋田県仙北市 樹齢300年超

青字は実施計画中
桜色♡は植樹済み
<2019年12月時点>

一般財団法人ワンアース <http://www.the-one-earth.org/jp/>

本年度の業務範囲は、以下の通りとする。

- ① 東北三県沿岸の全ておよび原発事故の被災地市町村(40)において、当該計画を



1e2020-001

公式化する(岩手沿岸12、宮城沿岸15、福島沿岸10・内陸3)

◇ 2019年12月現在26市町村で採択(うち13に植樹済み)

② 2020年度の予定地域は次の通り

- ◇ 岩手県洋野町(2本目、宇宙ひょうたん桜)3月予定
- ◇ 宮城県気仙沼市(2本目、宇宙ひょうたん桜)3月20日予定
- ◇ 福島県いわき市(宇宙神代桜)3月予定
- ◇ 福島県双葉町(宇宙星桜)3月予定
- ◇ 東京都多摩市(宇宙星桜)3月1日予定
- ◇ 大阪府寝屋川市(宇宙ひょうたん桜、植樹祭企画運営業務を受注)
- ◇ 兵庫県南あわじ市(宇宙ひょうたん桜、松林学長リード)2月18&19日
- ◇ 山形県飯豊町(宇宙神代桜、植樹祭企画運営業務を受注)10月末予定
- ◇ 北杜市&三枝桜守リード案件の植樹数件(山梨大学等)
- ◇ 野澤評議員の宇宙星桜苗場構想(千葉県茂原)も実現へ

③ 宇宙桜・苗を保有する各地域を廻り、復興のための苗の提供に係る協力関係の維持に努める

- ◇ 秋田県仙北市(宇宙武家屋敷枝垂桜)
- ◇ 福島県三春町(宇宙滝桜)
- ◇ 山梨県北杜市(宇宙神代桜)
- ◇ 岐阜県岐阜市(宇宙星桜)
- ◇ 岡山県真庭市(宇宙醍醐桜)
- ◇ 高知県仁淀川町(宇宙ひょうたん桜)
- ◇ 兵庫県淡路市夢舞台(宇宙スミレ)

④ きぼうの桜サミット(9/20~22の3日間、メインは21日(日曜))

- ◇ 東日本大震災の記憶と教訓を風化させずに後世に伝える広域交流コミュニティを醸成する
- ◇ 特に今回は、五輪フィーバー後の世間の目を、いま一度、福島復興に集めるとともに、宇宙と青少年をテーマにした新しい福島のイメージを樹立し、参加各地の力も借りて、これを広く発信し、風評払拭に大きく寄与することを目指す

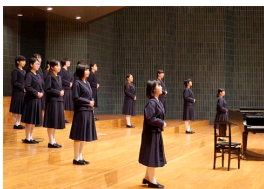


1e2020-001

- ◇ 五輪関係の行事が終息した後で、県外からも参加しやすい時期として、9月後半の4連休(9/19-22)のうち3日間を想定する
- ◇ 3日目(解散日)午前中に、きぼうの桜が植樹されているスカイパークを視察する(セスナ機への試乗交渉中)
- ◇ ワンアース主催、福島市共催、後援はJAXA、復興庁、マスコミなどを予定
- ◇ 今回は特に宇宙ミッション前夜色を濃く打ち出し、参加者・観覧者に強烈な印象を与える。そのためにはJAXAの強い協力が必要。JAXAと連携協定を結んでいる福島県にも協力いただいて、JAXA理事(若田光一宇宙飛行士)の参加を要請する。



- ◇ 若田宇宙飛行士自身またはJAXA宇宙飛行士の登壇を実現し、一般市民の参加を促進する。
- ◇ パネルディスカッションは洋野町方式を踏襲するが宇宙ミッションに特化し、宇宙飛行士、首長s、青少年らによる多方向ディスカッションとする。
- ◇ 共同宣言は宇宙ミッションへの提言とする
- ◇ 持続的な広域交流の鍵となる共通文化醸成のため、歌のセッションにも力を入れる。しゅうさえこ先生と地元合唱団等に出演依頼する(合唱団は全国レベルの福島一中や福島大学が候補)。さらにサミット常連の華・七ヶ浜町の劇団NaNa5931にも出演交渉中



福島一中合唱部



福島大学混声合唱団



NaNa5931

- ◇ 本サミットのレガシーを残すため、次世代を担う小中高生が数多くそして深く参画できるよう配慮する。学校行事に準ずる扱いで参加を募ることも検討。また、彼等が宇宙ミッションを発案するために必要な基礎知識が得られるよう事前の宇宙ワークショップ等も開催する(第1回 2019年12月22日開催)。



1e2020-001

- ◇ 参加地域が多すぎるため、各代表に十分なスピーチの時間が割けない。これを埋め合わせるためにも展示ブースを十分に確保する。できれば或一定期間展示を続け、一般市民にも広く見ていただける方法を模索したい

【参加想定地域】 岩手県洋野町／釜石市／大槌町、宮城県気仙沼市／南三陸町／石巻市／七ヶ浜町／名取市／亘理町、福島県檜葉町／福島市／浪江町／富岡町／川俣町／飯館村／南相馬市／いわき市／大熊町／双葉町、埼玉県吉川市、山梨県北杜市、兵庫県淡路市／南あわじ市、高知県仁淀川町、鳥取県湯梨浜町、山形県米沢市、山梨県北杜市、高知県仁淀川町、福島県三春町

【参考】過去の開催概要

回数	開催地	会期	参加地域数	参加人数	予算規模
第1回	宮城県七ヶ浜町	2017年8月	6	100	150万円
第2回	兵庫県淡路市	2018年5月	12	300	250万円
第3回	福島県檜葉町	2018年8月	15	300	350万円
第4回	岩手県洋野町	2019年7月	13	500	500万円

⑤ 合唱曲「きぼうの桜」の普及活動

- ◇ 作詞 村田さち子先生、作曲 しゅうさえこ先生
- ◇ 各市町村での贈呈及びサミットで必ず歌われるようにする
- ◇ 許可を得て子どもたちの歌唱の姿を Youtube で公開する
- ◇ 全国の著名な合唱団、小中高校等への紹介を継続

2) 東北復興宇宙ミッション 2021

東日本大震災発災から10年である2021年3月11日を期し、東北三県を主体に日本から全世界に、復興支援への感謝の気持ちと、震災の記憶と教訓を伝承するためのメッセージを国際宇宙ステーションから発信する計画である。

- ◇ 福島・宮城・岩手三県を中心とし、震災の記憶と復興のイメージを語る画像、モノ、言葉を国際宇宙ステーション(以下 ISS)に打ち上げる。
- ◇ ISS のキューポラ(地球が展望できる窓施設)や日本実験棟きぼう内に、物品・写真等を展示し、メッセージを宇宙飛行士に読み上げてもらい、映像を全世界に拡散する。
- ◇ 花や農作物の種などの記念品も打ち上げ、地上に回収後、地域活性化や震災の記憶と教訓の伝承に息長く活用する。



1e2020-001



	2019年度	2020年度	2021年度
主要イベント		オリンピック△ 9.21 きぼうの桜サミット福島 世間へ公表、物品の受領式	3.11 世界へ発信 夏 きぼうの桜サミット北杜 物品の帰還式
全体作業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミッション全体設計 ■ 各地参加促進 ■ 復興庁他調整 ■ JAXA調整 ■ 実施体制案調整 	ミッション内容設計・フライト物品選考 フライト物品準備 メッセージ公募	宇宙ミッション実施 打上 12月想定 物品帰還 5月想定 物品共有 全体で利活用
各地域作業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参画意思決定 ■ 地域気運高揚 ■ 参加内容検討 ■ 勉強会・協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加内容検討 ■ フライト物品選考 ■ 参加住民の画像準備 ■ メッセージ案検討 ■ サミット発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各地返還式典 ■ フライト物品利活用

主なマイルストーン(素案)



1e2020-001

各自治体との調整内容は次のような共通条件で進めている。

【参加資格】

東日本大震災で被害を受けた自治体、および被災地復興を応援する自治体

【打ち上げ物品等】

- ◇ 画像(データまたは印字した布等)
- ◇ 小さな物品(花や農産物の種、記念品等)各自治体 10g程度
- ◇ メッセージ等(データ伝送)

【費用負担】

無し(宇宙フライト経費<下記>を国が負担と想定)

宇宙フライト経費 概算 3000 万円(1kg の物品打上/回収、クルータイム 1 時間)

【実施主体】

参加各自治体の首長をメンバ、一般財団法人ワンアースを事務局とする協議体

【実現条件】

宇宙ミッションに係る実費を国が負担するよう認められること

- ◇ 復興庁次年度予算概算要求「東日本大震災 10 周年事業(1.4 億円)」/「復興発信イベント(公募予定・数千万円?)」に該当
- ◇ 各自治体連名で「復興発信イベント」公募に応募

【注】 2020 年度の必要経費は、地上の企画運営に 2000 万円ほど、宇宙フライトに 3000 万円(JAXA に支払)と考えており、前者は復興庁の公募で獲得予定、後者は東北各自治体と連名で国に要求し、減免してもらう方向で努力する予定。

【成果物の共有】

ワンチームの原則。成果は協議体全体で共有、物品(植物の種等)も供与した自治体が 1 年程度の一定期間優先的使用後、共有すること(宇宙〇〇花など地域ユニークな特産物として定義した後、参加他自治体にも供与)

3) 新規事業の創出

国内外の地域交流、教育に貢献するため、以下のような事業に着手する。

① 青少年と共に学ぶ宇宙教育

- ◇ きぼうの桜、宇宙ミッションを中心に、青少年の宇宙教育機会を創出する
- ◇ 学会等からの応援も要請(イベント学会、KU-MA* など)

* KU-MA(子ども・宇宙・未来の会) <https://www.ku-ma.or.jp/>



1e2020-001

② 新たな宇宙フライトミッションの創出

- ◇ 2024年頃を目指す新ミッション「地球の欠片・仮称(エベレスト、ツバル、深海の各欠片)」の仕込み(国際宇宙ステーションのノーベル賞獲得を後押し)

③ 国際交流とパイロット事業試行

- ◇ 台湾との国際交流(三船文彰理事案件)
- ◇ 中国との国際交流(工藤園子理事案件)
- ◇ その他、モンゴル、韓国、マレーシア、タイ、ベトナム等も検討

④ 出版

- ◇ 若田光一による地球写真集世界出版(野澤評議員案件・2021宇宙ミッションとシンクロさせつつ、子どもたちの声も取り入れる)

⑤ コンサル事業

- ◇ 非被災地自治体等からは、宇宙桜植樹事業企画運営を有償で請負う(米沢市 70万円、寝屋川市 200万円、津山市 100万円)。ここで得られた利益を東北復興事業等無償事業に回し公益法人としてのバランスを取る(公益財団法人化を目指すため、トータルでは収益をゼロにする必要がある)
- ◇ 民間からの受託を目指す

⑥ 物販等収益事業(協賛事業)

- ◇ 宇宙グミ(株式会社ビー・シー・シー様・東京)
- ◇ 宇宙線香(株式会社梅薫堂様・淡路島)
- ◇ 楽譜販売(カワイ出版、パナムジカ社)

4) 広報

① ワンアースのホームページ、パンフレット等を随時維持改訂する

- ◇ 迅速ではなく神速改訂に努め、活動報告や各種公示を遅滞なく実施
- ◇ 特にきぼうの桜計画および宇宙ミッションについては、各関係者が最新情報を分かり易く受け取れるよう配慮
- ◇ 宙だよりスタジオ(赤木評議員)、ひたち野きずな塾(古川顧問)はじめ、関連法人等とのリンクによるプロモーション効果
- ◇ パンフレットには提携しているカリスマ犬「サモエド犬のソラ」などのキャラクターを活用し、ホームページ閲覧への誘因効果を得る
- ◇ 2次元キャラとして、「ちいちゃん」を採用し、活用する(作者は18歳の、もふぴよ氏で、無償利用の合意済)。



1e2020-001



② イベント等の活用

- ◇ イベント学会はじめ、JAXA 関連イベント、宇宙コミュニティの集会等における発表もしくは展示機会を、効果的に利用する
- ◇ 発表機会には、関係する青少年も登壇できるチャンスを創出する
- ◇ 全日本合唱連盟を通じた合唱コミュニティネットワークの活用

5) 企業コラボ

① 宙だよりスタジオ(赤木評議員)との連携事業

- ◇ 宇宙桜製品
 - 三枝桜守、大野桜守のご協力により採取した剪定枝・葉の微細粉末化に成功(京都大学連携)したため、多様な製品への応用が期待できる(御香、和紙製品、菓子、御塩 等)
 - 花の採取と活用(押花等)は、古川顧問の力を借りつつ試行していく
- ◇ 宇宙イメージ製品
 - 360度ブック、文房具類などを構想中
 - すでに宇宙グミを製造販売している BCC 社との協力も検討
- ◇ 社会貢献
 - 全国の小学校等に宇宙アサガオの種を贈呈する計画構想中(松林学長による増殖・淡路島内の学校への配付状況および福島宇宙少年団との連携を考慮し、喜びあふれる事業にしたい)



1e2020-001

② CME モルゲンランド(野澤評議員)との連携事業

◇ 宇宙星桜製品

- 宇宙星桜(岐阜県岐阜市)の苗増殖と各種製品化について、苗元の星桜保存会と2019年に合意(収益の一部は、星桜保存会に寄付する)
- 宇宙星桜苗1本を2020年春季に譲り受け、千葉県茂原市の圃場にて増殖を試みる(一般財団法人日本菌根菌財団と連携) <https://jmff.jp/>
- 増殖した宇宙星桜を材料に、化粧品等多様な製品開発を試みる

③ 太陽ホールディングス(保延顧問)との連携事業

- ◇ 保延顧問の創業した株式会社サウマネジメントが太陽ホールディングスグループ会社となっている
- ◇ 2019年に内閣府公募の衛星実証実験契約を獲得、日経新聞等に掲載された。このため、太陽HS全体で宇宙に対する関心が高まっている
- ◇ 東北復興宇宙ミッション2021の地上イベントのスポンサーを願う方向で、今後調整予定

④ ひたち野きずな塾(古川顧問)との連携事業

- ◇ 2019年に古川顧問が創立したユニークな教育機関
<https://hitachinokizuna.com/>
- ◇ 青少年教育の現場にコンテンツを提供するなど双方向で活用したい

6) その他

① 公益財団申請

- ◇ 当面は会計システムの強化に専念し、時期を観て申請を検討する

② 復興庁補助金の獲得(3000万円目標)

- ◇ 復興庁次年度予算概算要求の中で新項目「東日本大震災10周年事業(1.4億円)」あり、この中の「復興発信イベント公募」に東北各自治体連名で応募

③ 在野の補助金(国土緑化推進機構等) 100万円程度…きぼうの桜の経費補助

④ 一般受注の獲得(非被災地自治体や民間)

- ◇ 宇宙関係イベント企画運営、デザイン、講演など。目標1000万円

⑤ 協賛の獲得

- ◇ 宇宙ミッション等に係る優良大企業への打診等



1e2020-001

- 太陽ホールディングスグループ(東北復興宇宙ミッションに係る、地上イベント開催支援…サミットとは別に 2021 年 3 月にどこかで開催しなければならない)
- ヤクルト(宇宙乳酸菌の活用等の可能性)
- サントリー(宇宙酵母の活用等の可能性)

⑥ オフィス等

- ◇ 事務所はなし。当面、茨城県竜ヶ崎市、代表理事の自宅で代用する
- ◇ 社用車はなし。当面、代表理事の自家用車を借用(保険は業務用とする)
- ◇ 常勤者(現状は代表理事のみ)への報酬支払については、補助金の獲得等財政事情に合わせて考慮する

⑦ キャンパス構想

- ◇ 2018 年 5 月に淡路島キャンパスを認定した
- ◇ 2020 年 4 月には岩手県洋野町大野キャンパスを、宇宙ひょうたん桜の中継基地として認定予定
- ◇ 将来的には、ワンアースの事業拠点を国内外各地に広げていく